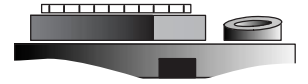


# 博物館だより

No. 67  
2006年3月21日発行

足寄動物化石博物館 フォストーリーあしよる



089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 電話 0156-25-9100 ファックス25-9101  
Eメール staff@museum.ashoro.hokkaido.jp  
ホームページ http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp 博物館だよりカラー版あり

お知らせ

## 春の探鳥会 2006年第1回

今年は雪が少なく、畑の土が見えてきました。栄養を十分とった鳥たちの動きは早いかもしれません。

第1回は、下足寄湖に集い、北へ飛び立つ準備をしている水鳥を観察します。



日時 4月9日(日曜日)  
午前8時～10時ころまで

集合 JAあしよる資材店舗前  
7時50分集合

観察場所

下足寄湖北東岸  
(仙美里ダム湖)



持ち物・服装  
防寒具や雨具  
長靴←かならず  
筆記具  
双眼鏡、フィールド  
カメラ スコープ  
野鳥の本

講師  
解説は足寄町西町の  
花田行博さん  
(日本野鳥の会理事)  
をお願いします。

暖かくなって南から渡ってくる小鳥を見る会は  
バードウィーク中の5月14日の予定です。

## 足寄近代化の象徴 鉄道と煉瓦

ふるさと銀河線の「終わり」は「始まり」とともに見送ろう

私たちが慣れ親しんだふるさと銀河線が、4月20日を最後に運行をやめることになりました。

ふるさと銀河線は、明治43年（1910年）に網走線として開通し、以来100年近くの間、網走本線、池北線と名前をかえながら、人や物資を運び続けてきました。

列車を導いた鉄路は、利別川を渡るとき鉄橋になります。その鉄橋の橋台（橋梁をささえる両端の土台）や橋脚は煉瓦（れんが）づくりでした。川の水にあらわれ、多くは補修されてコンクリートで被われましたが、建設当時の姿をのこしているものもいくつか確認できます。

煉瓦を焼いた工場は下愛冠にあり、鉄道工事が始まった明治40年から北見まで開通した明治44年まで、生産を続けました。煉瓦は新しく敷かれた鉄道で北へ運ばれたのです。

足寄町の近代化をもたらした鉄道、それを支えた煉瓦。いっしょに見ることができるのもあとわずかとなりました。国道とほぼ併走するので、何カ所かでふるさと銀河線の車両と煉瓦の橋脚を同時に見ることができます。写真に残すのにいい場所もありそうですよ。



利別川第10橋梁と銀河線車両



利別川第9橋梁の煉瓦造りの橋台

注意：国道に車を止めるのはやめましょう。車で畑に入っははいけません。

休館日 || 4月 4日、11日、18日、25日（火曜日）

博物館の動き 3月・4月（館の行事や職員の動き、来館団体、など）

3月 22日 上利別保育所のみなさん  
30日 組立骨格の定期点検  
4月 8日 北海道開拓記念館・開拓の村  
文化振興会のみなさん  
25日 クジラ関係展示更新作業（休館日）

### 展示観覧料改定

4月1日から展示観覧料を改定します。  
一般 400円（旧 300円）  
一般団体 300円（旧 250円）  
免除は町内の小中学生だけとなりました。